鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース
第129号
2024年5月1日

6月22日(土)・23日(日)
国生みの神々ゆかりの地でお会いしましょう！！

今年度の年次総会・研究発表会・シンポジウムは古来、日本の海の玄関口を鎮る住吉大社で開催する。

詳細は３・４頁に掲載しているが、研究発表ではシンポジウムテーマである「都市公園と社叢」と関わるものを含め、３者が研究成果を発表する。シンポジウムでは、丸山宏・名城大学名誉教授と小出英詞・住吉大社権禰宜による基調講演で、社叢が都市公園の成立に果たした役割について聞く。その後のパネルディスカッションでは、さらに円山公園（京都市）と上野公園（東京都）という日本を代表する都市公園を取り上げ、憩いの場のみならず、防災拠点ともなってきた都市公園と社叢の関係について、解き明かしていく。

翌日は、大阪を専用バスで出発、一路、淡路島に向かう。途中、淡路島在住の澤田佳宏・兵庫県立大学准教授の案内を聞きながら国生みの二柱を祀る伊弉諾神宮に向かう。参拝・拝観の後、昼食では食材の宝庫・淡路島を味わう予定。午後からは、弥生時代後期に鉄器づくりを行っていたとされる五斗長垣内（ごっさかいと）遺跡、阪神淡路大震災で出現した野島断層を保存する野島断層保存館、県立公園あわじ花さじきなどを訪れ、最後に「おのころ島」伝承地のひとつで島の北端に浮かぶ絵島を見学し、神戸三宮を経由して新大阪に戻る。

日本の都市計画の始めの地となった住吉大社、日本の国土の最初の１滴となったと伝わる淡路島と、様々な角度から最初の日本を体感する２日間、ぜひご参加いただきたい。

なお、正会員で総会に欠席の向きは、必ず委任状の提出をお願いいたしたい。

第73回理事会を開催

第73回理事会を下記の通りリモート開催した。
開催日時：2024年3月14日（木）午前10時30分～正午
出席者：全理事24名のうち20名（12名は委任状提出）
審議事項　第１号議案：令和６年度通常総会の件
第２号議案：8月以降の事務局体制の件　第３号議案：『社叢学研究』投稿規定の件　**報告事項**　『社叢学研究』第22号について/社叢インストラクター養成について

『社叢学研究』投稿規程は以下の通り。

1. 社叢学研究は、社叢学会定款第３条に基づき、社叢に関する学術研究と情報共有を目的として発行する雑誌であり、投稿原稿のほか、学会活動報告、書評、その他を掲載する。
2. 投稿資格は、社叢学会正会員または正会員１名を含むメンバーとする。
3. 投稿原稿は、原著論文、研究ノート、解説、会員活動報告とする。原著論文は先行研究との関連性を踏まえつつ学術的な新知見や合理的で独創的な考察を含むもの、研究ノートは断片的あるいは萌芽的な研究であるが新しい事実を含む比較的短いもの、解説は新知見や今日的問題を短報として紹介するもの、会員活動報告は鎮守の森の活動報告、社叢訪問記等とする。
4. 原著論文（巻頭論文を除く）と研究ノートについては、複数の査読者による査読を行い、編集委員会において掲載の可否を判断する。解説、会員活動報告、その他については、原則として査読は行わず、編集委員会において掲載の可否を判断し、必要に応じ訂正を行う。
5. 投稿原稿は、図版・写真等を含めて刷り上がり8ページ以内（全角文字のみの場合、タテ書き 14,500字以内・ヨコ書き 18,500字以内）とし、8ページを超える場合は、印刷実費分を自己負担とする。
6. 投稿原稿は、連絡先を記した電子データ等を、社叢学会事務局に提出する。
7. 投稿原稿執筆者には掲載５部を進呈する。抜刷は必要部数を校了までに申請し、執筆者の印刷実費負担において作成する。
8. 投稿原稿は随時受付けるが、当該年度掲載分の締切りは原則として10月末日、その他短文のものは1月10日とする。
9. その他必要な事項は編集委員会において決定する。

以上

第39回　中部定例研究会　報告

2024年3月10日
（於　八柱神社社務所）

櫛田川上流域の神社と社叢巡り

話題提供：櫻井　治男（社叢学会理事長・皇學館大學名誉教授）
萩原　豊和（八柱神社宮司）
長谷川泰洋（社叢学会理事・名古屋産業大学准教授）

櫛田川上流域の社叢巡り

櫛田川は三重・奈良県境の高見山（標高1,248m）から三重県中部の中央構造線沿いに東へ流れて伊勢湾に注ぐ全長87kmの一級河川で、川沿いの道は「和歌山街道」と呼ばれる伊勢神宮への参宮街道の一つ。倭姫命が天照大神の鎮座地を求めて諸国巡行中に櫛を落とされ、その後、歴代の斎王は群行の際に櫛を櫛田川に捨てて、神に仕える決心をしたと言われます。

三重県松阪市飯高（いいたか）町内を流れる櫛田川周辺を香肌（かはだ）峡といい、街道筋の社叢には杉・楠・椰の神木を始め、天照大神と春日大神の国争いや倭姫命伝承など興味深い譚が伝わっている。研究会は、国道166号線沿いの天然温泉がある道の駅「飯高駅」に集合して３口の法螺貝吹奏で開幕。車に分乗して、樹齢千年以上の県指定天然記念物の大楠がある水屋神社と奇岩が並ぶ櫛田川河畔、杉の美林と皇學館大学の元名張学舎「神明社」の古材を利用した由緒立札がある田引八柱神社、夫婦杉など杉の巨木が並ぶ乳峯（ちのみね）神社、市指定天然記念物の夫婦杉と県指定文化財の彩色彩画本殿のある黒瀧神社の４社叢を巡り、途中の八柱神社社務所で報告会を開催した。

櫛田川上流域の民間伝承について（櫻井理事長）

水屋神社の東方200mの櫛田川中に礫石（つぶていし）があり、天照大神が白馬に乗って当地に来たところ、水屋の森から春日の神の翁が現れ、ここが伊勢と大和の堺だと主張したので、大石を投げて洪水を起こし高見山まで遡ったので、高見山を伊勢と大和の国境とし、翁も納得したという「国分け伝説」がある。紀伊半島には春日の神を祀る神社も多く、三重県内の神社の5%が春日造りである。

田引・八柱神社の由緒と神社活動（萩原宮司）

五男三女の神を主祭神とする八柱神社の社蔵の棟札（寛政３（1791）年）には「護國廟八王子」とも讃えられ、安土桃山時代には既に田引地区の氏神として崇敬されていた。また境内奥山の山頂には浅間神社が鎮座、麓の遥拝所の冨士塚「田引富士」には神猿像が配置、富士山信仰が色濃く残る地域を物語る。神殿は杉巨樹を含む美林に囲われ、樹齢200年以上、樹高45mの大杉が参道脇にある。

櫛田川上流域の社叢調査報告（長谷川理事）

月平均気温が５℃以上の月を植物の生育可能期間と考え、月平均気温から５℃を引いた値を積算したのが「暖かさの指数」で、当地域は110で暖温帯に分類される。水屋神社の渓流沿いには、多様な草本類やシダ類がある。八柱神社にはスギ巨樹と多くの注目種が生育し、特に浅間山は低山（277m）にもかかわらず1,000m級の高山に生育するモミが数本ある。黒瀧神社のスギ巨樹の周辺にも多様な植物相が保全されている。

櫛田川上流域の社叢は自然共生サイトの認定に十分な状態であり、自生した多様性のある植生と県内屈指のスギ巨樹群、行き届いた境内管理も多様性の保全に貢献している。各神社の自然面の特徴を明確化しつつ、櫛田川沿い社叢の一体的な保全が必要である。

★　社叢学会では、今年度の年次総会を開催させていただく住吉大社で2018年9月に第82回関西定例研究会を開催し、本紙96号にその記録を掲載した。今回はそれを再録し、総会での拝観の参考に供することとする。

第82回　関西定例研究会　報告　　2018年9月29日　(於　住吉大社)

住吉大社参拝と社叢研究

話題提供：小出　英詞(住吉大社権禰宜)

住吉大社四本宮の一つ第二本宮

祭神：住吉大神(＝底筒男命・中筒男命・表筒男命)
　　神功皇后
創建：神功皇后摂政11(211)年

(略)小出権禰宜のご案内で境内を巡拝。反橋(太鼓橋)の急こう配の床板は、今は階段状になっているが、戦前は橋床に開けられた小さな穴に足先を引っかけて上り下りしていたこと、今も神輿はこの橋を渡ること、与謝野晶子が山川登美子と鉄幹を巡って歌比べを繰り広げたことなどを聞きながら、淀君に寄進されたと伝わる橋脚がよく見える神池を巡った。池のほとりでは、源頼朝の側室だった丹後局が正室政子を怖れて住吉まで来たところで産気づき、石にすがって薩摩藩主島津家の祖である忠久を出産したという誕生石が今も安産祈願の信仰を集めている。両柱が四角の石鳥居をくぐり、国宝に指定されたいずれも住吉造の四本宮を参拝した。住吉造は神社建築では最古の様式の一つとされ、即位の礼で建てられる大嘗殿もこの様式。四宮はいずれも西向きで、これは航海の神として海を見守るためと考えられているという説明を受けた。

神楽殿での正式参拝の後、髙井道弘宮司にご挨拶をいただき、６月に古式ゆかしい御田植神事が斎行される御田には海浜に生息するハマヒエガエリが生育し、古来、この地が海浜であったことを証明するものであるとの紹介があった。

再び境内に出て、日本三大舞台の一つで、豊臣秀頼の寄進として有名な石舞台、「初辰さん」と親しまれている商売繁盛の守護神・楠珺社とその周辺にある神木「千年楠・夫婦楠」、校倉造の高蔵、大阪最古の図書館ともいわれる御文庫などを巡った。

遣隋使・遣唐使が出港するなど外交上の要であった住吉津・難波津と関係し、国家的な航海の守護神として、さらに平安時代からは和歌の神として、江戸時代には広く庶民からも崇敬された住吉大社は、今も篤い崇敬を集めており、境内には多くの職業組合や団体が寄進した石灯籠を見ることができる。

さらにこの後、吉祥殿の境内が見渡せる会場で小出権禰宜から「住吉の松と社叢の変遷」をテーマに社叢の松の変遷について聞いた。

『万葉集』以来、住吉の景観を詠んだ歌には松が数多く出てくる。『伊勢物語』や『源氏物語』でも同様で、海岸と松と鳥居は住吉模様と言われ、日本の様式美の一つとなった。こうした松への思い入れはやがて信仰にまで高まり、住吉大社は和歌の神様として歌人の信仰を集めるようになる。

ところが18世紀になると大和川の付け替えによって、住吉浦にも土砂が堆積し、「岸の姫松」が後退すると同時に新田開発が盛んとなった。さらに天明年間には天候不順が頻発し、大飢饉を引き起こす一方で、住吉の老松が次々と枯死していった。これを惜しんだ有志の発願により、松苗の寄付を募る「松苗勧進」が始まったが、これは緑化運動の先駆けとも言われ、現在も4月3日に松苗神事が斎行されている。

明治になると4(1871)年の上知令、6年の住吉大社境内の公園地指定(＝住吉公園の設置)、８年の公園地と境内地の分割と神社は大きく姿を変えていった。また、江戸時代から始まった新田開発に続き、近代化から高度成長に伴う大阪湾の埋め立てによって、海からは遠く隔離されてしまった。こうして白砂青松の景観は失われたが、境内から住吉公園に続く松並木は日本人の心象に深く根差す松と松のある景観への思い入れを感じさせる。

次回予告【第93回関西定例研究会】

◆日　　時：6月8日(土) 13：30～16：00
◆場　　所：石清水八幡宮（八幡市八幡高坊30）
◆テ ー マ：石清水八幡宮のカヤノキ（見学と講演）
◆話題提供：カヤノキの民俗　ーカヤノキの立地とカヤ油を中心にー
◆講　　師：藤井　弘章（近畿大学教授）

book book book　book book book

神と妖怪の防災学　「みえないリスク」へのそなえ
高田　知紀　著

地域防災を進める上で、地域の神社が果たしてきた役割に注目し、実践的な活動を進めながら研究成果を積み上げている著者が、妖怪の存在に着目、「神と妖怪という目に見えない超自然的存在を語ることは、地域防災の実践でどのような意味をもつか」という問いを探究した結果をまとめた。

妖怪というと、得体のしれない存在として排除してしまいがちだが、本書によると、我々は妖怪に囲まれて生きていると言っても過言ではなさそうだ。しかし、そうした迷信・迷妄と一笑に付される存在が、災害への警告であるとすれば、それこそがこの21世紀にまで生き残ってきたあかしなのかもしれない。人口減少による地域の弱体化が危惧される昨今、妖怪を含めた地域の伝承を再び見直すことは、科学技術による防災を補完する意外に強力な手段ではないだろうか。

雨がしとしと降る夜に、目には見えないモノの気配を感じながらページをめくるのも一興かもしれない。　　法律文化社　定価2千9百円＋税

事務局から

- 住吉大会が近づいてまいりました。諸費高騰する中の開催となりました。特に見学会の参加費もこれまでよりも高額になってしまいました。事情ご賢察の上、ご理解くださいますよう、お願いいたします。
  なお、参加費はできるだけ事前にご送金ください。同封いたしました会費の振替票の金額を修正してご使用ください。

- 令和6年度（2024年4月～2025年3月）の会費の振替用紙を同封いたしました。銀行振り込みもご利用いただけます。三菱UFJ銀行　京都支店　普通口座6720345　特定非営利活動法人社叢学会　です。
  郵便局振替口座へのお振り込みは、099店 当座0172640 特定非営利活動法人社叢学会 です。なお、会員証はご希望の向きにのみお送りいたします。ご希望の節は、その旨お知らせください。
  学会活動を円滑に運営するためにも、会費の納入方、よろしくお願いいたします。

- 下記の通り、『社叢学研究』23号への投稿を募集しています。研究者の業績評価にもつながりますので、ぜひご投稿ください。論文には至らない準備段階の研究ノートや、短報、身近な活動、社叢の訪問記（紀行文）もお待ちしています。
  投稿規程は1面を、学術論文としての体裁を整えるための書き方や、引用文献、参考文献の扱い、記載の仕方については社叢学会のホームページ（http://www.shasou.org/journal/format.pdf）をご参照ください。

編集後記

カスハラをしてしまった。。。時は3月、会報と会誌をお送りすべく、ネコさんメール便の運用が代わるので営業所に行って、あーだこーだとお安く、手間がかからない方策を相談。結果、会報は郵便局で（会報はOKのはずが、「会員諸氏には」って文言があるから私信になるんだってさ、解せん!）、会誌は、郵便局で集荷を断られたのでお高い（前の３倍近く!!）ネコさんを使うことに。

で、開封にしろって言うから封入口を半分切り、封入し、宛先を貼り、ようやく完成！　が、集荷のおねーさんが「あ、このDMシールじゃダメなんです」って！　どゆこと？？　そんなことな～～んにも言わなかったじゃん！！ で、思わず逆上、怒鳴りつけてしまった。。。悪いのはおねーさんじゃないってことはわかってるんです。でも制御できず、ホントごめんなさい。なんか、３日ほど自己嫌悪に陥ったよ。。。　　（藤岡　郁）

掲示板

『原稿募集！』

『社叢学研究』第22号への投稿：論文、研究ノート、短報、資料紹介や調査報告（各400字詰原稿用紙40枚以内）と「鎮守の森の活動報告（祭、音楽会、調査、ワークショップなどの実施報告、抱える問題点など）」「社叢訪問記」（各1,200字程度）を募集いたします。
締め切りは、論文等10月31日（木）　活動報告等1月10日（金）　いずれも必着。

★　会誌の投稿規程と論文の体裁、引用文献の記載方法を公開しています。投稿される方は、これに従って提出してください。http://www.shasou.org/journal/format.pdf

＊　書評欄では会員の皆さま方の著作を取り上げています。出版された方は、ぜひご献本下さい。

発行人　社叢学会事務局　〒604-8115 京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号
TEL・FAX 075-212-2973
URL http://www.shasou.org　E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp

2024年度年次総会の概要

参加ご希望の方は、6月14日(必着)にて、裏面申込用紙にご記入の上、FAXもしくは郵便にてお送りいただくか、同内容をMailにてお知らせください。但し、見学会はバスが満席になり次第、締め切ります。

	時　間	内　　容
6月22日(土)総会・研究発表・シンポジウム	10:00～10:20	住吉大社正式参拝
	10:30～11:15	年次総会
	11:15～12:30	研究発表 崇神系・応神系の神信仰及び鎮護国家仏教と社叢 岡村穣(社叢学会理事・名古屋市立大学名誉教授) 紫金山公園と吉志部神社社叢　武田義明(社叢学会理事・神戸大学名誉教授) 近現代の神社制度と上知・境内地処分・国有地払下げ問題 河村忠伸(秋葉山本宮秋葉神社権宮司)
	12:30～14:00	昼食と境内拝観
	14:00～18:00	シンポジウム「都市公園と社叢」
	14:00～15:35	基調講演　近代公園制度と社叢：丸山宏・名城大学名誉教授 住吉大社と住吉公園：小出英詞・住吉大社権禰宜
	15:45～18:00	パネルディスカッション パネリスト： 森本幸裕(社叢学会副理事長・京都大学名誉教授):円山公園と東山の社寺 押田佳子(日本大学理工学部准教授)：上野公園と寛永寺 丸山宏・小出英詞 コーディネータ：上甫木昭春（社叢学会理事・大阪府立大学名誉教授）
	18:00～19:00	懇親会
23日(日)見学会	8:00	天王寺駅集合(詳細は参加者にお知らせいたします)
	11:00～12:00	伊弉諾神宮参拝と拝観
	12:30～13:20	昼食　！　アレルギー等、召し上がれないもの等は、事前にお申し出ください
	13:30～16:30	五斗長垣内遺跡(ごっさかいといせき)・野島断層保存館・県立公園あわじ花さじき(時間によっては割愛することがあります)・絵島　等見学
	17:30ごろ	神戸三宮駅にて希望者降車
	19:00	新大阪駅解散

研究発表･シンポジウムと関連行事参加申込書

FAX：075-212-2973

＊　ご希望の行事の(　)欄に〇をおつけ下さい。同伴者がいらっしゃる場合は人数をお書き下さい。

(　　)見学会：同伴　　人　(　　)懇親会：同伴　　人　(　　)研究発表・シンポジウム：同伴　　人

会員番号　　お名前

携帯電話番号・Mailアドレス等当日連絡先

鎮守の森だよりvol. 129

★伊弉諾神宮：祭神＝伊弉諾命(いざなぎのみこと)・伊弉冉命(いざなみのみこと)
『古事記』・『日本書紀』の冒頭にその創祀を記す最古の神社。国生み・神生みを終えた伊弉諾命が、天照大神に国家統治の権限を委ね、淡路の多賀に「幽宮(かくりのみや=終焉の住居)」を構へて鎮まったとされ、これが創祀の起源となっている。
記紀の天地開闢説話によると、「天地はじめて發けしとき」に、高天地に造化三神が現われ、続く神世七代で現れた伊弉諾命(男神)と伊弉冉命(女神)に、「この漂へる国を修理固成よ」と命じた。二神は天浮柱に立ち、天沼矛で大海原をかき回し、矛の先から滴り落ちた雫が「淤能碁呂(おのころ)島」となる。この島に降り立った二神は、夫婦となって国生みの儀式を行い、最初に誕生したのが淡路島で、続いて四国、隠岐、九州、壱岐、対馬、佐渡、本州と生まれ、「大八洲」という古代日本の国土が出来上がったとされる。記紀に記載がある中では全国で最も古い神社で、淡路国一宮であることから地元では「いっくさん」と別称されている。
伊弉諾神宮から真東に行くと飛鳥藤原京から神宮・内宮に至り、春分秋分には伊勢から太陽が昇り、対馬の海神(わたつみ)神社に沈む。夏至には諏訪大社から出雲大社へ、冬至には熊野那智大社から高千穂神社へと太陽が運行する。境内のモニュメント「陽の道しるべ」は、こうした太陽の運行と伊弉諾神宮を中心とする有名神社との不思議な配置を紹介している。また、祭神二神が宿る御神木として、樹齢約900年の夫婦大楠がある。

★五斗長垣内遺跡（ごっさかいといせき）：今からおよそ1,800～1,900年前の弥生時代後期に鉄器づくりを行っていたとされる、丘の上につくられた村の跡。平成24年9月に国史跡に指定された。発掘調査では23棟の竪穴建物跡が見つかり、その内の12棟が鉄器づくりを行っていた鍛冶工房であったことがわかった。100点を超える鉄製品をはじめ、多数の石製工具類なども発見されている。当時貴重であった鉄器をつくり続けた村として周辺の地域にも大きな影響力をもっていたのではないかと考えられている。鉄が貴重であった時代にこれほど多くの鍛冶工房が発見された遺跡は少なく、しかも同じ場所で100年以上も続いていることから、当時の社会の様子を知ることができる貴重な遺跡だとされている。遺跡は国の史跡に指定されており、出土品は県の有形文化財に指定されている。

★野島断層保存館：阪神・淡路大震災で出現した野島断層は、全長約 10km に及ぶ活断層で、第1回国際「地質遺産100選」に選ばれ、地質学的重要性から、国指定の天然記念物にも指定されている。保存館では断層を発災当時のままに保存し、断層による生垣のズレや地割れなどの地形の変化を実物・パネルなどで展示。断層の断面を見ることができるトレンチ展示や触ることができる断層もあり、地震の凄まじさと脅威を感じ、地震に備える大切さを伝えている。
さらに、神戸大空襲(1945年)に耐え、阪神・淡路大震災では周囲の建物が倒壊全焼する中、その姿をとどめた神戸市長田区若松町の公設市場の延焼防火壁「神戸の壁」、活断層の真横でもほとんど壊れなかったメモリアルハウス「地震に強い家」などが展示されている。

兵庫県営公園あわじ花さじき：兵庫県が設置した近畿地方屈指の花の公園で、1998年4月4日に開園。淡路島の北側の丘陵地域の頂上部の高原地帯の標高235mから298mにかけての甲子園球場の約4倍の広さを使って大阪湾に向かって咲き誇る花々を散策しながら鑑賞できる。年間で約250万株の花が植えられ、春は菜の花、夏にはクレオメ･ヒマワリ、秋はコスモスが見ごろを迎える。特に菜の花の名所で、12月中旬から咲く早咲きの品種から遅咲きの品種まで栽培され、一面続く菜の花を見ることができる。6月下旬には、クレオメ、三尺バーベナなどの花畑に蝶が舞う姿を見ることができる。

★絵島：淡路島の北端に浮かぶ島で、国生み神話に登場する「おのころ島」伝承地の一つ。海人(あま)が活躍した明石海峡を背景に、長年の風波に洗われて描き出された造形美がおのころ島に見立てられたと考えられている。古くから景勝地として知られ、多くの和歌にも詠まれている。

参加費(いずれもお1人)	見学会	懇親会	シンポジウム
正会員・協力会員・賛助会員	12,000円	4,000円	無料
市民会員・同伴する家族	14,000円	5,000円	
一般	15,000円	6,000円	500円

見学会ご参加に際してのお願い

★ バスの座席には限りがあります。なるべくお早めにお申し込みください
★ 参加費はできるだけ事前に下記の口座にお振り込み下さい（会費用振替用紙の金額を修正してご使用ください）
郵便振替：口座番号：00950-0-172640　特定非営利活動法人社叢学会
銀行振込：三菱UFJ銀行　京都支店　普通口座6720345　特定非営利活動法人社叢学会